

## ◆主な取組

## 積極的な新技術の導入

地下かんがいシステムや大豆の狭条密植栽培のほか、水田傾斜化技術の導入により、地表水排除による畑作対応技術の確立や水稻栽培の省力化のための湛水直播、乾田直播栽培を導入する等、積極的な新技術導入に取組。

畑作対応技術策定調査  
(レベラー作業)

レーザーレベラー  
(ほ場均平化装置)



乾田直播

## コストダウン

大型機械導入とオペレーター組織化、水稲・麦・大豆のブロックローテーション等の営農活動に取組、平均1戸当たり年約14万円の赤字から黒字経営に転換。

## 遊休農地の解消

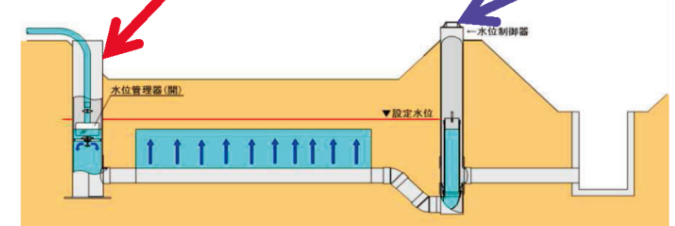
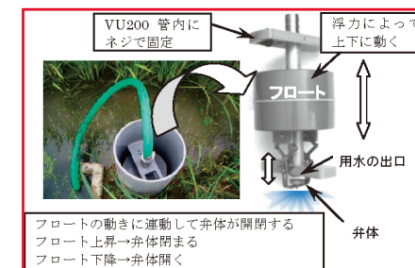
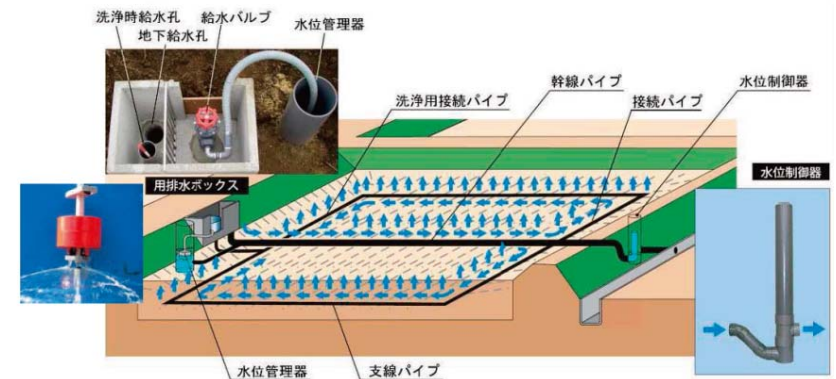
作付地の団地化(転作作物:小麦、大豆)、作業受託に取組み、集落から耕作放棄地田を解消。

## 役割分担の明確化と住民の農業参加

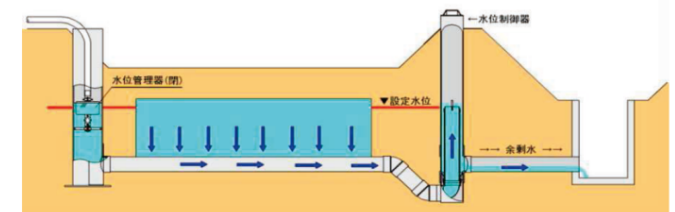
地権者が行う「個人管理作業(畦畔の草刈り、水管理等の作業)」を明確にし、女性農業者・高齢者は個々の体力にあった作業に取り組むような体制を構築。  
また、個人管理面積に応じ、ほ場管理費を配分。

## ◆地下かんがいシステム(FOEAS)について

FOEASは、水田の地下排水と地下灌漑の両方の機能を備えた施設であり、水田で栽培される畑作物の安定生産などに貢献。



設定水位に上昇するまで自動的に給水



設定水位を超えたら自動的に排水

- 加西西部地区は地区内の水田用水のほとんどを大小のため池に依存しており、各施設の用水系統は錯綜し、小規模なものが多いため、維持管理に多大な労力を要しているとともに用水不足が生じていた。また、畑については用水手当がなされていない状況であった。
- このため、地区内への用水供給のため、糺屋ダムなど基幹農業水利施設を整備するとともに畑地かんがいを行い、経営規模の拡大と生産性向上による農業経営の安定化を図ってきた。



### 国営加古川西部土地改良事業概要

受益面積：3,850ha

(水田3,590ha、畑200ha、樹園地60ha)

関係市町村：加西市、小野市、西脇市、加東市、多可郡多可町、姫路市

主要工事：ダム1ヶ所  
頭首工4ヶ所  
揚水機場1ヶ所  
導水路5.1km  
幹線用水路41.7km  
水管理施設1式

事業費：398億円(共同事業費含まず)

事業工期：昭和42～平成2年度



## (参 考) 国営加古川水系広域農業水利施設総管理事業の概要

- 加古川西部土地改良事業を含めた加古川水系にかかる3つの国営農業水利事業（東条川地区、加古川西部地区、東播用水地区）で建設された基幹的農業水利施設については、国営加古川水系広域農業水利施設総管理事業により一元的及び総合的に管理されている。

### 管理事業の目的

- ◇各ダム等の水管理を集中し、効率的な体制を整え、適正な水管理と管理費用を節減
- ◇各施設の諸規程（水利使用規則、ダム操縦規程等）に従い、正常な機能が発揮できるように、施設の維持管理、操作を実施
- ◇高度な管理技術によって、洪水時におけるダムからの放流などの安全対策を実施

### 国営加古川水系広域農業水利施設総管理事業概要

受益面積：15,073ha（水田14,343、畑730ha）

関係市町村：神戸市他8市2町

主要管理施設：（東条川地区）鴨川ダム、導水路1路線  
（加古川西部地区）粧屋ダム、頭首工4ヶ所、揚水機場1ヶ所、導水路3路線、幹線水路2路線  
（東播用水地区）吞吐ダム、大川瀬ダム、川代ダム、導水路2路線、幹線水路1路線

管理所の配置：総合管理所（吞吐ダム地点に設置）及び3ヶ所の基幹施設（鴨川・大川瀬ダム、川代ダム、粧屋ダム）に管理所を設置

上水道：東条川地区及び東播揚水地区に日最大289.5千m<sup>3</sup>を供給

工業用水：加古川西部地区西脇市域に日最大30千m<sup>3</sup>を供給

### 国営事業の事業区域

